

新たな時代に向けて 変化する大学の今

～高・大・社接続に向けて～



2023年11月18日
リクルート進学総研所長
リクルート「カレッジマネジメント」編集長
小林 浩

<略歴>

小林 浩

リクルート進学総研 所長

リクルート「カレッジマネジメント」編集長

株式会社リクルート入社後、グループ統括業務を担当、「ケイコとマナブ」企画業務を経て、大学・専門学校の学生募集広報などを担当。経済同友会に出向、教育政策提言「若者が自立できる日本へ」の策定にかかわる。その後、経営企画室、コーポレートコミュニケーション室、会長秘書、特別顧問政策秘書、進学カンパニー・ソリューション推進室長などを経て2007年より進学総研を立ち上げ初代所長に。

文部科学省「熟議に基づく政策形成の在り方に関する懇談会」委員（2009年～2011年）

文部科学省「大学ポートレート（仮称）準備委員会」委員（2012年～2014年）

文部科学省中央教育審議会高大接続特別部会臨時委員（2012年～2014年）

文部科学省中央教育審議会大学分科会大学教育部会短期大学ワーキンググループ臨時委員

（2013年～2014年）

文部科学省高大接続システム改革会議委員（2015年～2016）

文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会専門委員（2016年～2017年）

文部科学省「これからの専修学校教育の振興のあり方検討会議」委員（2016年～2017年）

文部科学省中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会委員（2018年～2020年）

文部科学省中央教育審議会大学分科会質保証システム部会委員（2020～2022）

文部科学省中央教育審議会大学分科会臨時委員（2023～）

大学基準協会

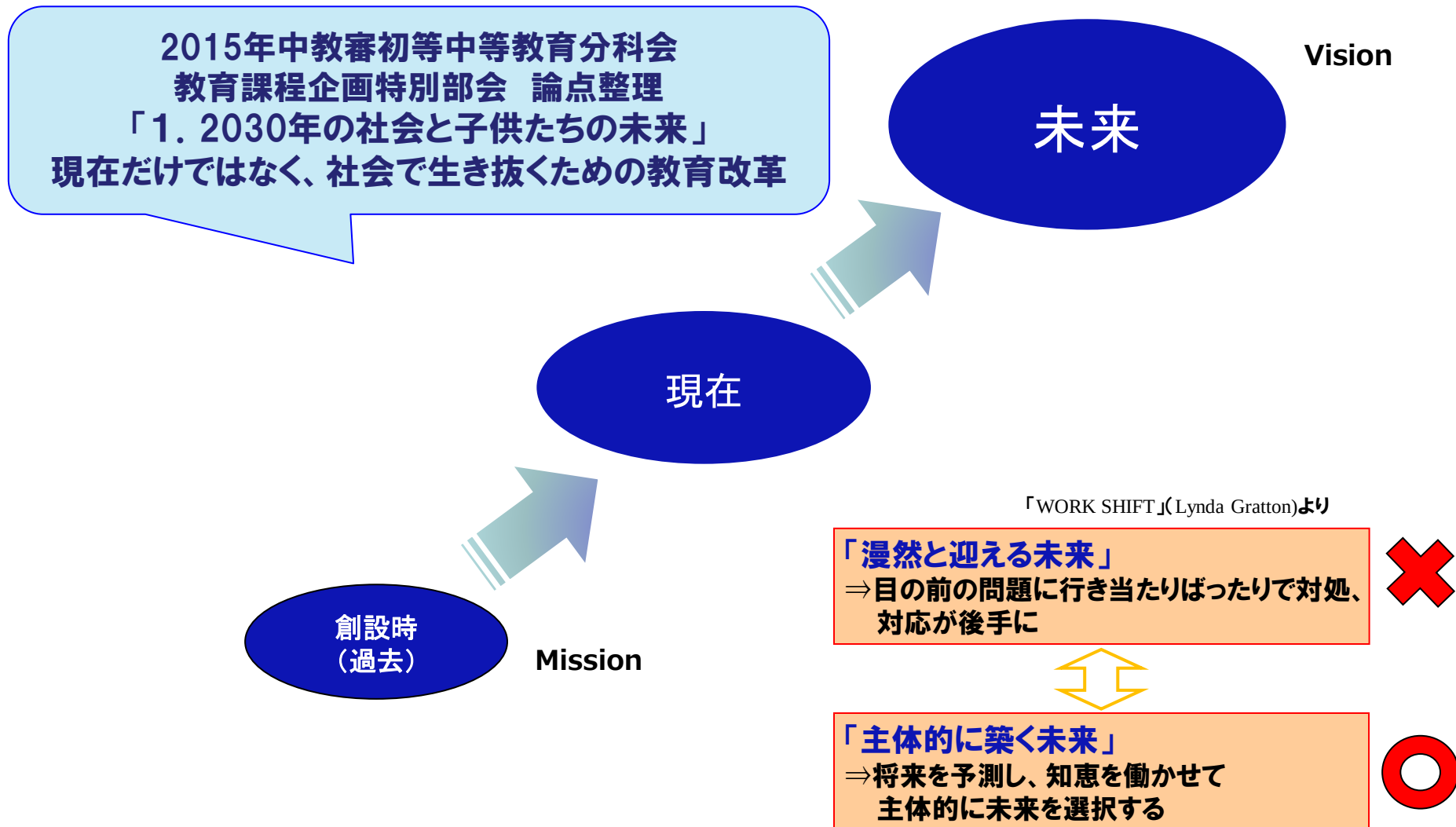
広報委員、大学評価委員会委員、大学基準委員

日本高等教育評価機構

広報委員、大学評価判定委員会委員

日本学術振興会

卓越大学院プログラム委員会 審査・評価部会委員



動き出した高大接続改革

2030年の社会と子供たちの未来



～大学入試改革でなく、目指すのは高校の教育改革～

4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変化する予測が困難な状況を指す

Volatility (変動性)

Uncertainty (不確実性)

Complexity (複雑性)

Ambiguity (曖昧性)

これまでの社会

工業化社会

生産年齢人口増加（人口ボーナス）

欧米をキャッチアップする社会

大学進学率＜50%（リーダー養成）

知識・技能の「習得」と「再生」

【情報処理力】

（早く効率的に答えを求める力）

一つの正解

同質化社会で積み上げるキャリア

同一文化の中での暗黙の理解

これからの社会

知識基盤社会

生産年齢人口急減（人口オーナス）

グローバルに多極化する社会

大学進学率＞50%（ユニバーサル化）

知識・技能の「活用」

【情報編集力】

（思考力・判断力・表現力）

複数の納得解

自分のキャリアを切り拓く力

異文化の中での多様性の許容

グローバル化

新型コロナウイルス

技術革新・IT化

変化が激しい、予測できない社会において、必要とされる能力は？

主体的、能動的に「生涯学び続けられる人」の育成

選抜機能を果たせず、
早期化する大学入試

勉強時間の少ない
日本の大学生と高校生

知識偏重、点数至上主義
による選抜

身につけるべき力 = 学力の3要素

- (1) 十分な知識・技能
- (2) それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に
自ら解を見いだしていく **思考力・判断力・表現力等の能力**
- (3) これらの基になる **主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度**

(高大接続システム会議最終報告)



上記の能力を身につけさせるために、
①高等学校教育 ②大学教育 ③大学入学者選抜
の3つを、一貫した理念のもと**一体的に改革**を行う

【高校改革】

(2022年～)

新学習指導要領スタート
自ら問いを立て、
解決できる人材の育成

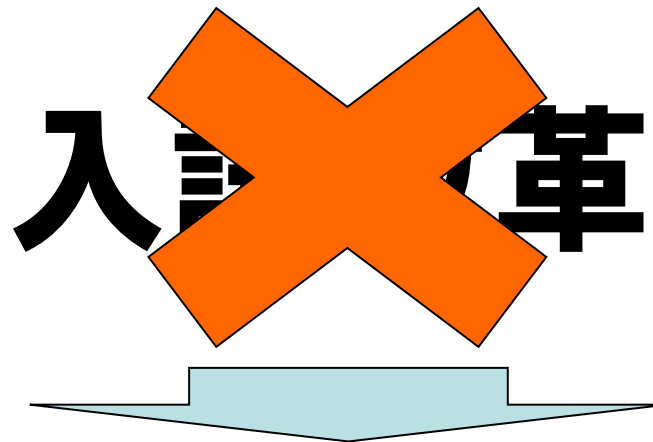
【入試改革】

(2021年～)

暗記再生型から
「学力の3要素」
を問う入試へ

【大学改革】

3つのポリシーに基づく
入学から卒業まで
一貫した学修者本位の
教育体制へ



高校教育・大学教育・大学入学者選抜の三位一体となった

教育改革

変化する大学の今

A horizontal bar with a rainbow gradient, transitioning from red on the left to blue on the right.

～質保証を前提とした大学改革を推進～

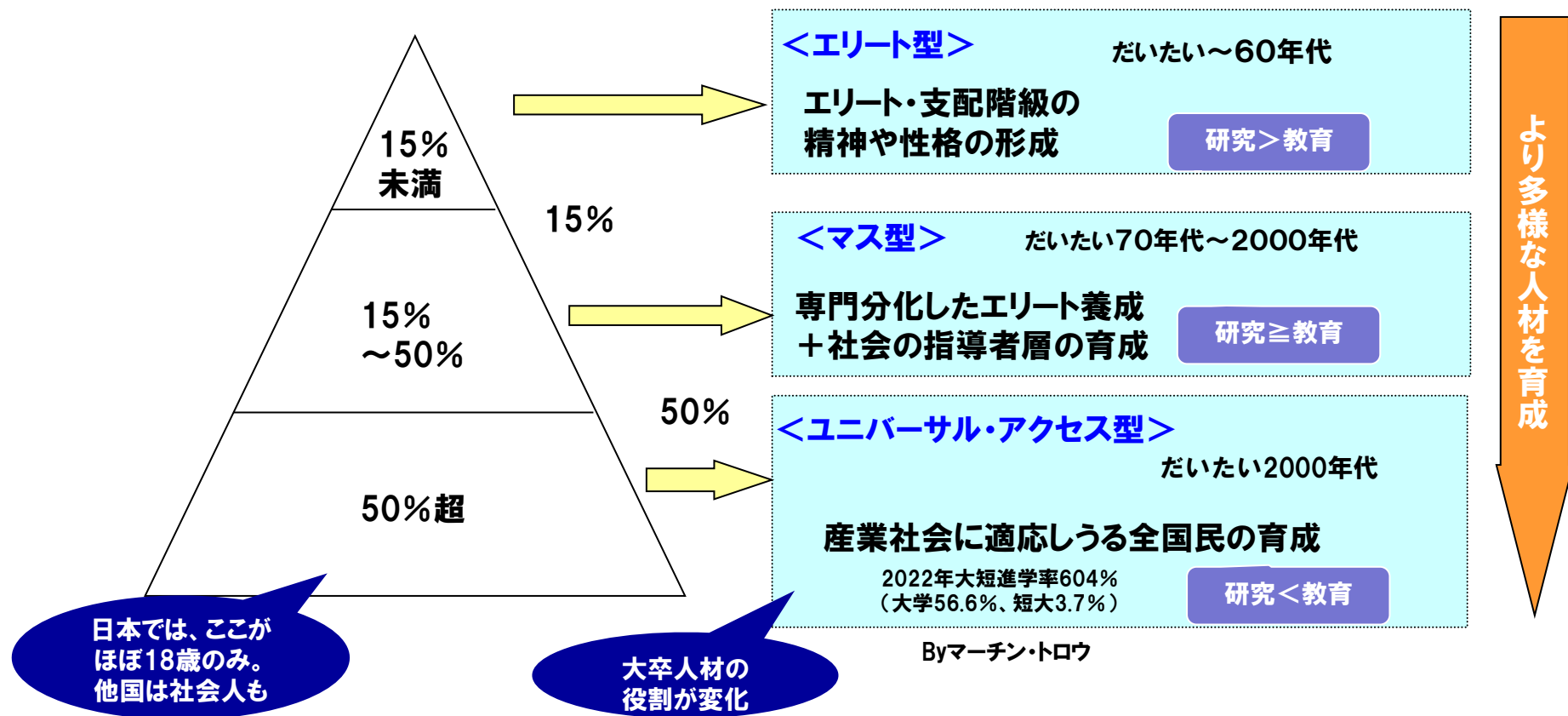
昔のイメージのままで見ている！

大学の教職員から

→大学入学者層が変化しているのでは？

企業経営者・人事

→大卒者の質が低下しているのでは？



(参考)韓国:約7割、アメリカ:約7割、中国4割強 (Reference) South Korea: ~70%, America: ~70%, China: ~40%+

社会から見た大学の状況（保護者・人事管理職の時代との比較）

	1990年	2022年	'90年⇒'21比
18歳人口	201万人	112万人	4割減
大学数	507校 (短大593校)	807校 (短大309校)	約1.6倍 (短大▲45%)
公立大学数	39校	100校	約2.5倍
大学（学部）進学率 (高等教育進学率) ※過年度含む	大学24.6% 短大11.7% (53.7%)	56.6% ↑ 3.7% ↓ (83.8%)	大学進学率 2倍以上
学士の学位に付記する専攻 分野名称の数※	29種類	700種類以上 ※うち約6割が一大学のための独自名称	約24倍
私立大学定員割れ	-----	大学47.5%(短大85.7%)	

※2014.7日本学術会議「学士の学位に付記する専攻分野の名称の在り方について」より

2023年定員割れ53.3%。私大全体の定員充足率99.59%大学全入時代が到来（2021年99.8%）

学部・学科名から中身がわからない

学修成果が見えづらい

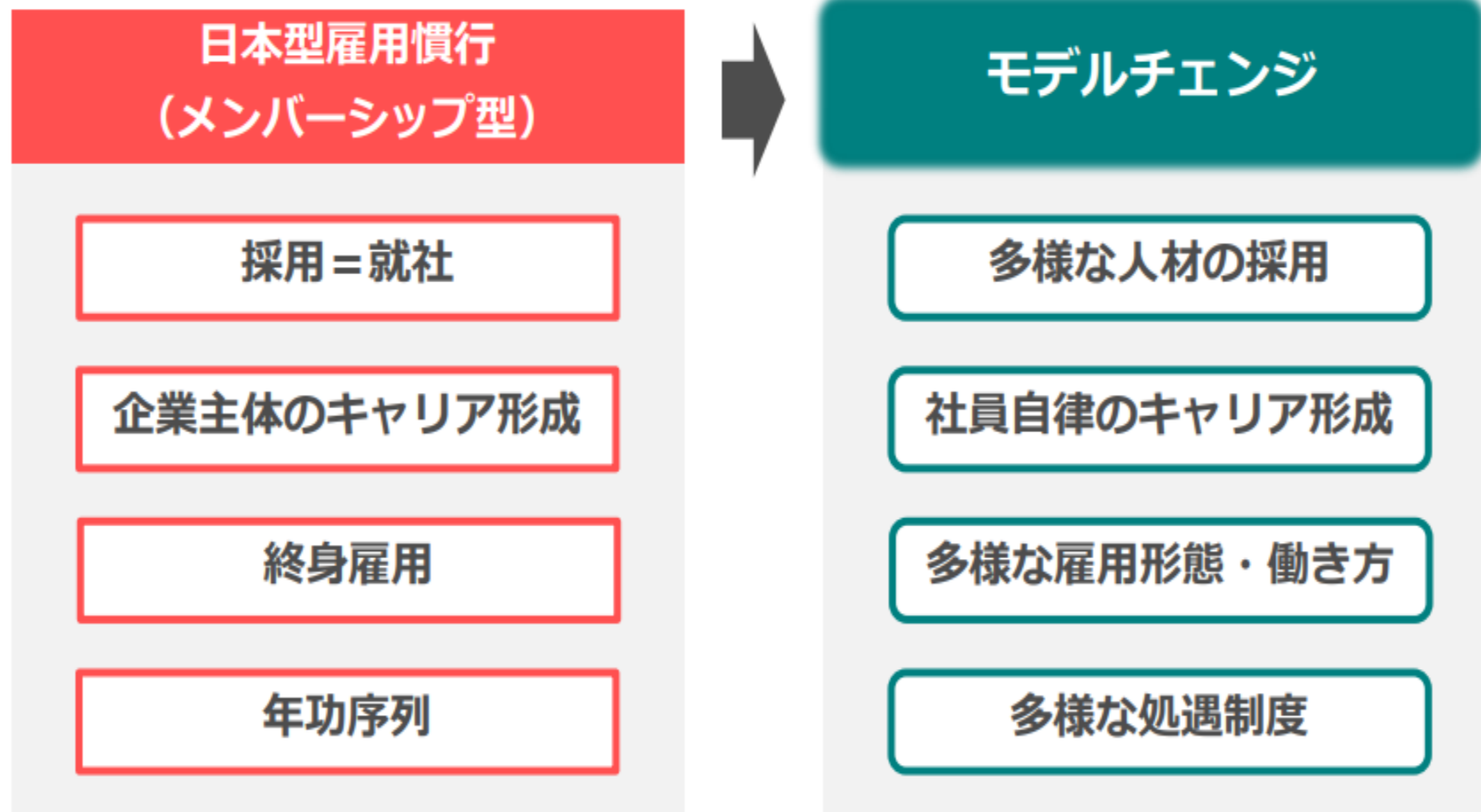
偏差値が信頼できない

情報公開が進まない

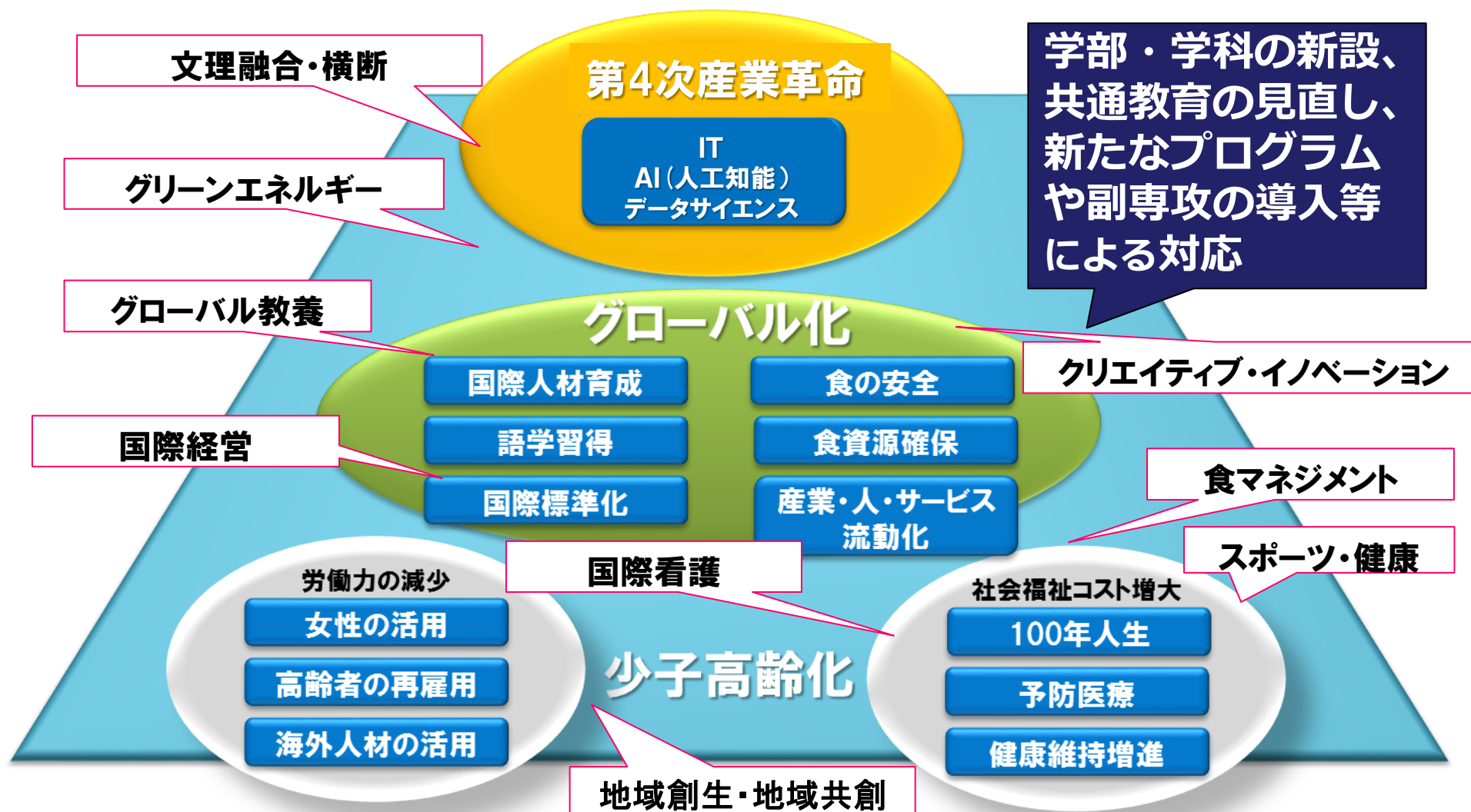
疑問

- ・各大学の特徴は何なのか。どの学部で何を学んでいるのか
- ・大学卒業時にいったい何が身についているのか
- ・自ら考え、主体的に行動できる人材への枯渇感（指示待ち社員の増加）
- ・グローバル化が進む中で、日本の大学対応できているのか
- ・そもそも大学が多すぎるのではないか
- ・地方の大学はなくなってしまうのか

人口減少下において、高等教育の量的拡大が進む中で、大学教育の質は担保・保証されているのか



新たな社会課題に対応した学部・学科プログラムの誕生



出典：リクルート「カレッジマネジメント」205号掲載図表に加筆

各大学の学びの特徴はどこにあるのか。しっかりとした情報収集が重要に

①「三つの方針」の策定に基づく大学教育の実現

- ・各大学において育成を目指す人材像やそのための具体的な教育活動について明確化、可視化



2016年3月31日学校教育法改正、2017年4月施行⇒義務化

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、

「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、

「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の一体的な策定と公表

- ・積極的な情報発信⇒大学関係者だけでなく、高校教員、保護者、受験生といったステークホルダーにも理解しやすい文章表現であること

②認証評価制度改革（内部質保証システムの構築）⇒教育の質保証

- ・7年に一度受ける認証評価制度を、2018年度から改定

⇒高大接続改革を踏まえた評価項目・方法への転換

⇒3ポリシーに基づく評価、各大学の自律的な改革サイクルとしての内部質保証機能を重視した評価

大学改革の最も大きなキーワード
「学修者本位の教育への転換」



学修者(学生)が何を身につけたのか

<ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)>

大学を卒業時に、学生は何ができるようになるのか、どのような人物を社会に送り出すのか

<カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)>

それができるのは、どんな理念に基づき、どのような教育の仕組みがあるからなのか

<アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)>

そのためには、どんな志向や意欲をもった学生に来てほしいのか、
どのような要件(学力、意欲、活動実績等)が必要なのか
(カレッジ・レディネス)

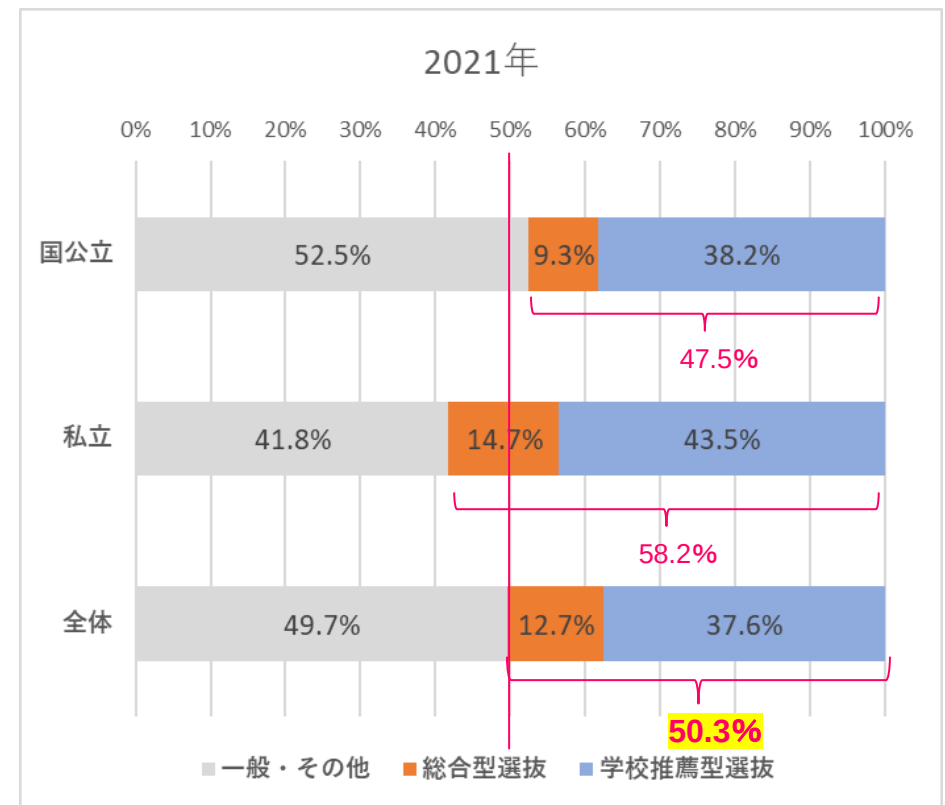
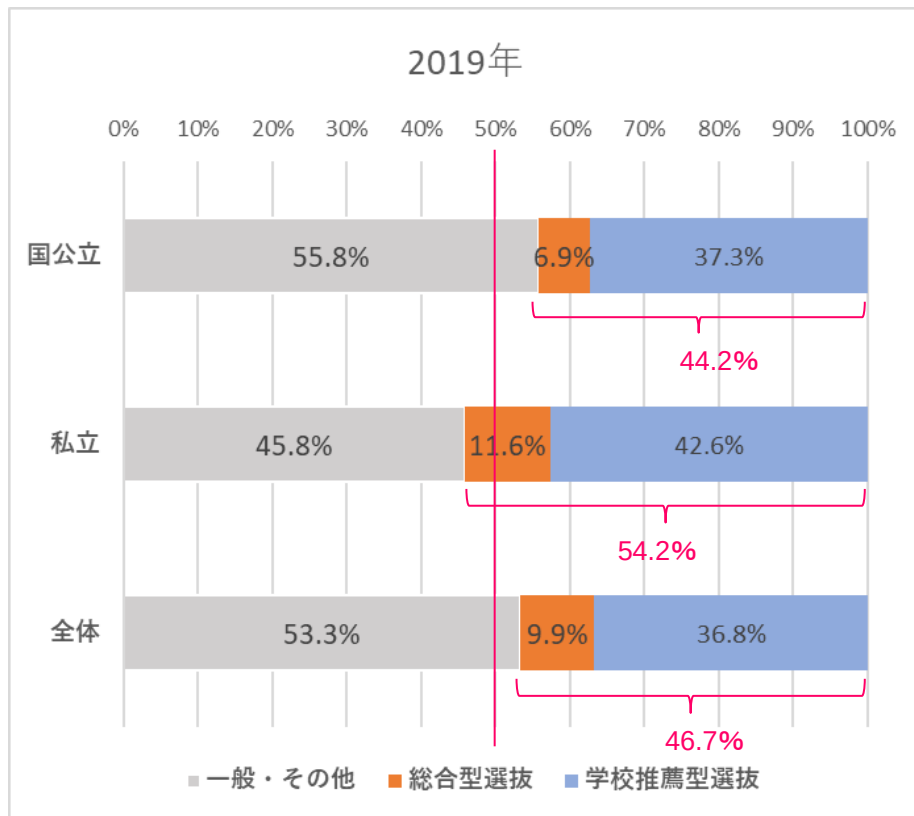
⇒だからこそ、入試は大学から受験生へのメッセージ

**大学は高校までとは異なり、国が定める学習指導要領が存在しない
だからこそ、各大学の育成したい学生像(ミッション・ビジョン)の
実現に向けた改善や改革の取り組みがから見てわかるようになっているか**

<参考> 年内入試が主流（過半数）に

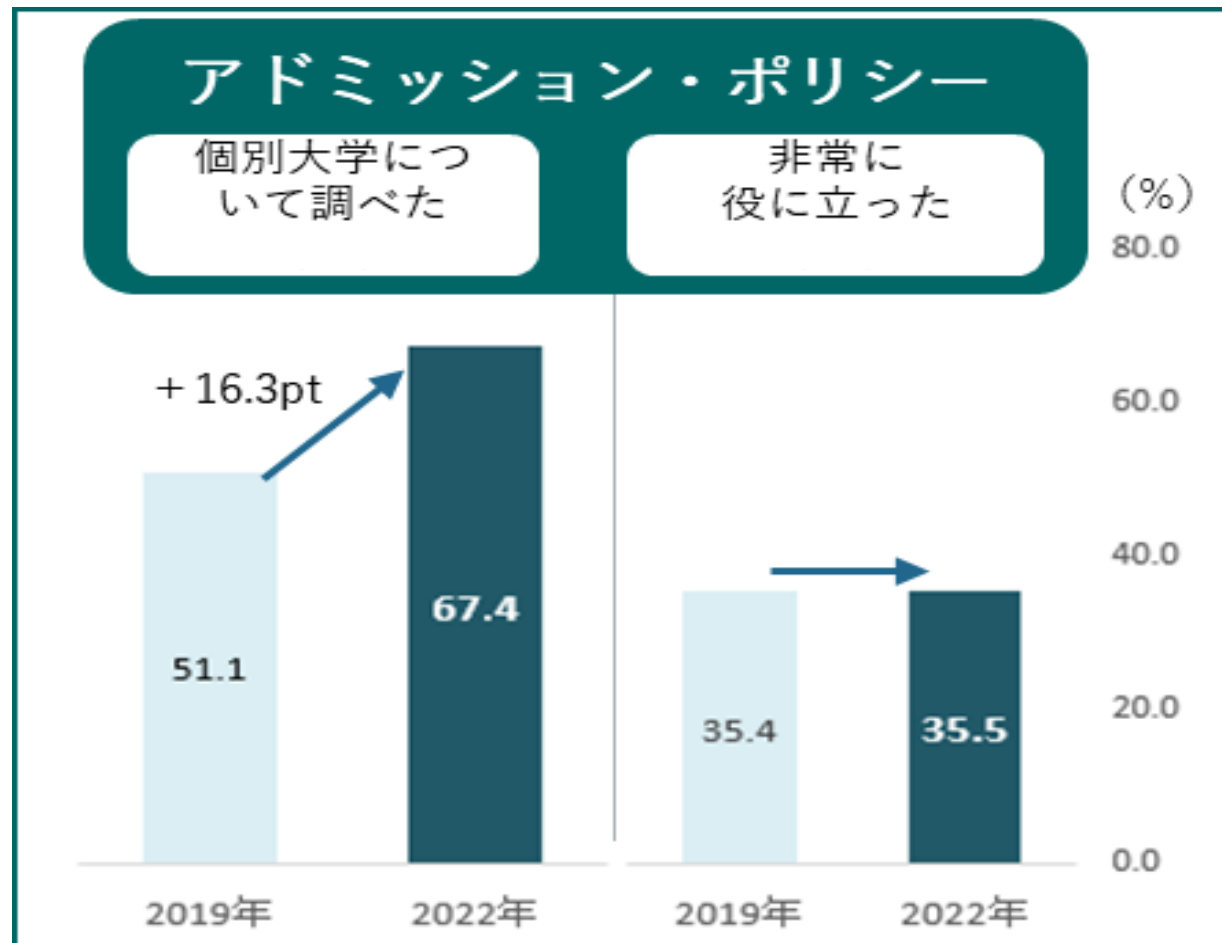
文部科学省の調査では

- ◆ 2021年度入学者において、既に全体で年内入試（総合型＋学校推薦）が主流（50.3%）に
 - ◆ 私立だけでなく、国公立も年内入試比率が増加（総合型選抜の伸びの方が大きい）
 - ◆ 私立は年内入試比率が約6割（58.2%）に達している
- ⇒直近では、更に総合型選抜が増加傾向
- ⇒探究の学びを評価する、学力の3要素に注目し、文理横断型の総合型選抜も増加している



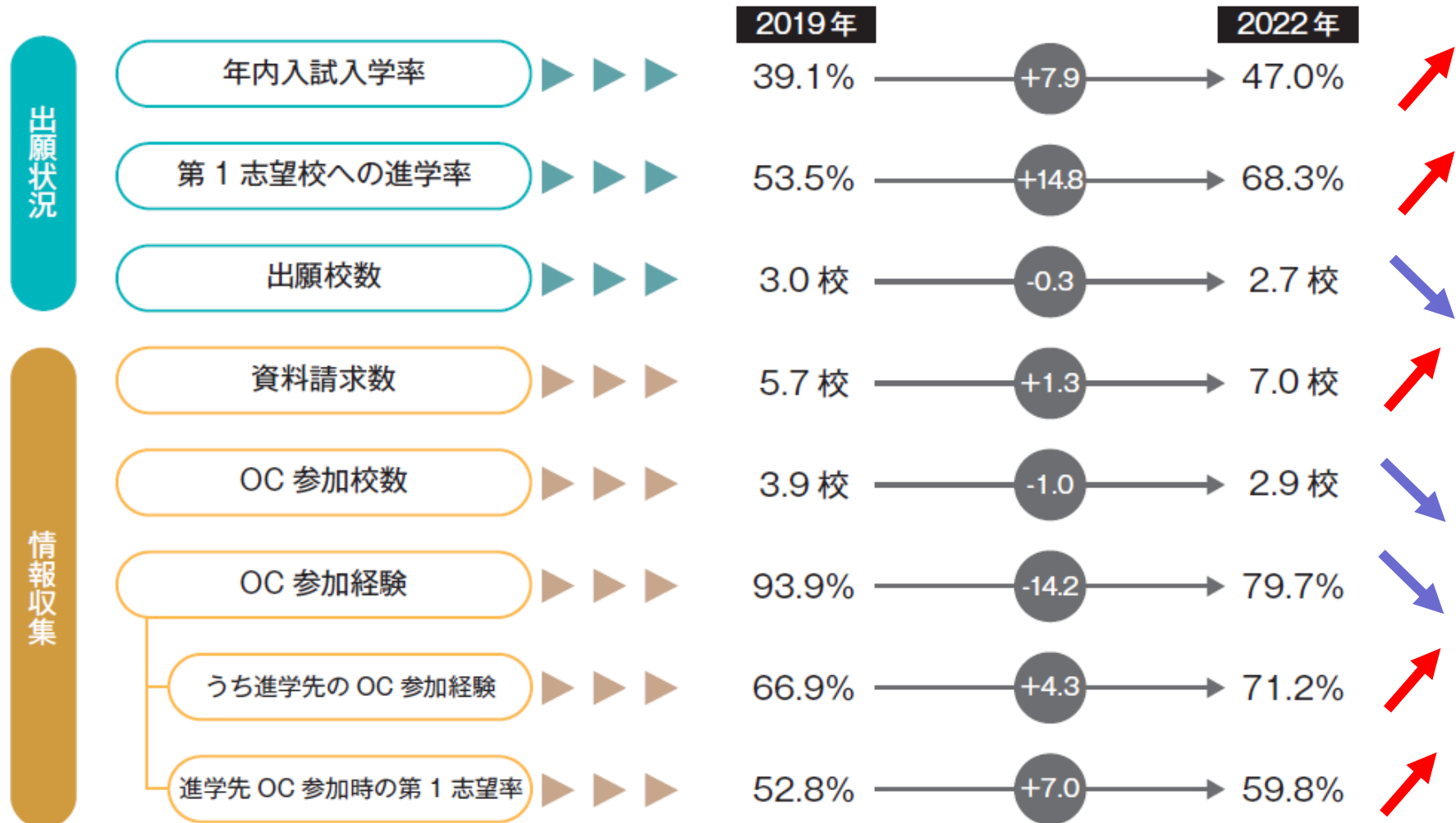
文部科学省：令和3年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要より

- ◆ 2022年個別大学について調べた高校生は約7割（67%）と2019年より16.3P増加
- ◆ 総合型選抜、学校推薦型選抜増加により、調べる受験生が増加
- ◆ 一方、非常に役に立ったは、35%で伸びていない
- ◆ 2017年に義務化され、高校でも一般的に進路指導で使われるようになったが、依然として高校生目線のアドミッション・ポリシーになっていないのではないか



2022年の進路選択状況のまとめ

- ◆ 年内入試へのシフトが進み、進路選択行動で全体的に早期化
- ◆ 資料請求数は増えたが、オープンキャンパス参加率、参加校数は減少
- ◆ 一方、第1志望の大学のオープンキャンパスへ参加率はアップ
- ◆ 早期に第1志望校を絞り込んだ上で、確認のためにオープンキャンパスに参加。年内入試で受験し、少ない出願校数で最終的に第1志望校に進学する高校生が多かった。



「そこでしか学べない内容がある」が上位にあるのは、専門学校のみ
 →大学・短大では、これまで偏差値、グルーピングで選ばれて、
 学ぶ内容、教育の個性や特長は意外と伝わっていないのではないか
 ex)MARCH、日東駒専、関関同立、産近甲龍⇒そんな名前の大学はない！

可能性
+
キャンパスライフ

目指す仕事・職種
+
早く社会に出られる

特定の業種業界
+
そこでしか学べない内容がある

	大学進学者が感じる 大学進学の特長 (n=2071)		短大進学者が感じる 短大進学の特長 (n=93)		専門学校進学者が感じる 専門学校進学の特長 (n=337)	
1位	将来の選択肢が広がる	80.2	早く社会に出られる (2年で卒業できる)	77.4	自分のやりたい専門分野の勉強に集中 できる	90.5
2位	少なくともどこかに就職できる可能性 が高くなる	77.9	自分のやりたい専門分野の勉強に集中 できる	76.3	自分の目指す仕事・職種につける	88.4
3位	有名企業や大手企業に就職できる可能 性が高くなる	76.6	自分の目指す仕事・職種につける	67.7	特定の業種・業界に就職しやすい	81.9
4位	学生生活が楽しめる	75.2	就職してから活躍できる実力を身ににつ けられる	65.6	そこでしか学べない内容がある	81.3
5位	幅広い教養を身に付けられる	74.2	少なくともどこかに就職できる可能性 が高くなる	64.5	手に職をつけられる	81.0



学校教育を通じて 求められているものは

A horizontal bar with a smooth rainbow gradient, transitioning from red on the left to blue on the right.

～学校から社会へのより良い接続を目指して～

気になる受け身の進路選択

- 例えば
- ・高校2年生で文理選択(1年の夏休み明けに選択)⇒ネガティブ・クリーニングに
 - ・私立大学入学者の多くが指定校推薦へ⇒「偏差値高い順に選びました」の声
 - ・浪人を回避して「行きたい大学より、行ける大学」へ



第一志望校進学率は高まったが、本当に主体的に進路選択ができているか
入学後ミスマッチの懸念も

求められる当事者意識

“学ぶ”と“働く”を繋ぐポイント

変化に柔軟に対応できるか

受動的な生徒・学生を
いかに主体的、能動的な生徒・学生に変えていくか

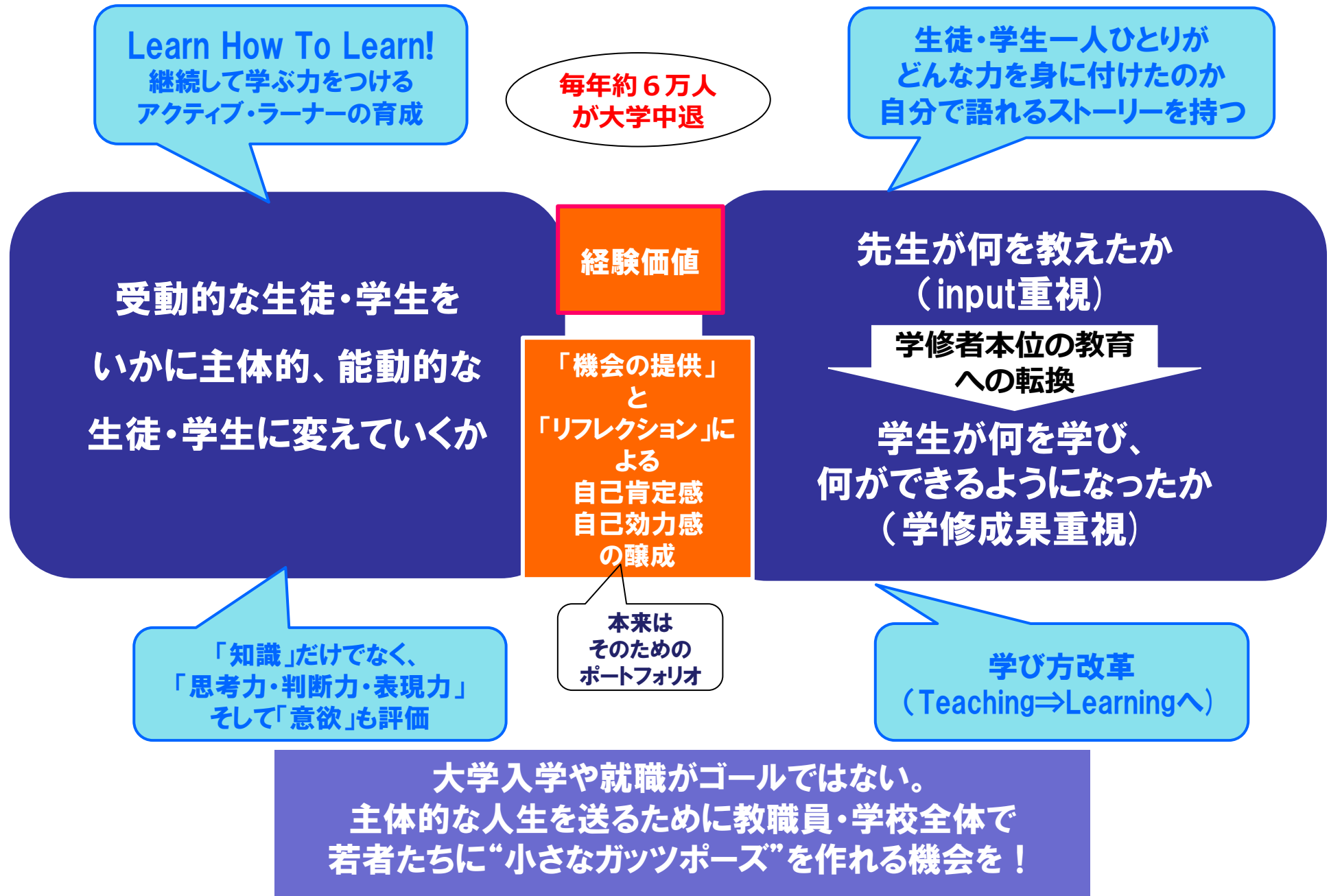


自ら考え行動できる生徒・学生の育成

如何に、「心のエンジンを駆動させる」ことができるか



好奇心に火をつけられるか



ご清聴、ありがとうございました。

- 高校・大学の取り組み事例等はHPに掲載しています。
「リクルート進学総研」

リクルート進学総研

🔍 検索